



設立記念シンポジウム
Establishment commemorative symposium

テーマ

健康寿命の延伸のために

療法士が果たすべき役割

会 期：2021年 9月18日(土) 9:30～15:00

主 催：一般社団法人日本老年療法学会

会 場：国立長寿医療研究センター(Web開催)

大会長：島田裕之 センター長(国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター)

後 援：厚生労働省・愛知県

目 次

ご挨拶	2
プログラム	3
ウェビナーのご利用について	4
特別講演	6
シンポジウム	11
大会長講演	15
共催セミナー	17
協力企業一覧	20
入会のご案内	28
役員のご紹介	29

ご挨拶

この度、一般社団法人日本老年療法学会を令和3年7月に設立いたしましたことご報告申し上げます。

本学会設立の背景として、世界的に社会の高齢化は大きな問題となっており、単に寿命を延伸するのみではなく、健康長寿の実現が重視されるようになってきました。健康寿命の延伸のためには、後遺症を残す疾病の予防や改善と、心身の機能の保持や向上が重要な課題となります。障がいをもつ高齢者のリハビリテーション、障がいの一次、二次予防、そして高齢者の機能保持や改善において、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士は中核的な役割を担う職種であり、それぞれの専門性から創出された知見を共有することで、よりよい高齢者保健、医療、福祉の実現に近づくことが期待されます。

しかし、現状においてはこれらの職種が一体となって議論できる場は限られており、知見の共有やイノベーションの創出ができていく状態です。この状況を打破すべく、今回、日本老年療法学会を設立いたしました。本学会においては、理学療法学、作業療法学、言語聴覚療法学のみならず、視能療法学、心理療法学、音楽療法学といった高齢者の療法に関する学問領域や、老年医学、内科学、整形外科、栄養学、代謝学、リハビリテーション医学、運動生理学、歯科・口腔外科学、薬剤学、看護学、社会学、福祉学など多くの臨床、基礎、社会科学研究分野における健康長寿に関する研究の発展を目指します。療法士のみならず、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士など様々な予防・医療・介護専門職及び基礎医学分野の研究者との交流の場として本学会を設立することにより、ますます深刻化するアジアの国々の高齢化に向けた対策の知見を創出したいと思います。本学会における学際的な活動を通じて、老年療法学の確立を目指し、保健、医療、福祉領域における学術的貢献のみならず、省庁、行政、産業界と連携して、得られた知見を広く社会実装することを目指します。

以上の趣旨をご理解いただき、今後更なる医療・医学の発展と社会への貢献のため、本学会が十分な成果をあげることができるよう、是非ともご指導をよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人 日本老年療法学会
理事長 島田 裕之

プログラム

9:30~9:40	開会の挨拶 大会長:島田 裕之 センター長 (国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター)
9:40~10:20	特別講演1 老年学領域における療法士への期待 講師:国立長寿医療研究センター 荒井 秀典 理事長 座長:島田 裕之 センター長 (国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター)
10:20~11:00	特別講演2 健康寿命延伸における療法士の役割と期待 講師:桜美林大学大学院 鈴木 隆雄 教授 座長:牧迫 飛雄馬 教授(鹿児島大学 医学部保健学科理学療法学専攻)
11:00~12:00	シンポジウム 健康寿命延伸と療法士 演者:理学療法士の立場から/土井 剛彦 予防老年学研究副部長 (国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター予防老年学研究部) 演者:作業療法士の立場から/田平 隆行 教授 (鹿児島大学 医学部保健学科作業療法学専攻) 演者:言語聴覚士の立場から/外山 稔 准教授 (国際医療福祉大学 福岡保健医療学部言語聴覚学科) 座長:山田 実 教授 (筑波大学 人間系)
12:00~12:50	大会長講演 日本老年療法学会の設立趣旨と今後の目標 演者:島田 裕之 センター長 (国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター) 座長:池田 望 教授 (札幌医科大学 保健医療学部作業療法学科) 後援:第一生命保険株式会社
12:50~13:00	休憩
13:00~13:50	共催セミナー インターリハ株式会社 高齢者医療における多職種連携の重要性 演者:前田 圭介 医長 (国立長寿医療研究センター 病院 老年内科) 座長:島田 裕之 センター長 (国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター)
13:50~14:00	休憩
14:00~14:50	共催セミナー 株式会社ツクイホールディングス 介護の企業が取り組む高齢者支援へのチャレンジ 演者:波戸 真之介 シニアスペシャリスト (株式会社ツクイホールディングス グループ戦略室) 座長:金子 文成 特任准教授 (慶應義塾大学 医学部 リハビリテーション医学教室)

ウェビナーのご利用について

ウェビナーに関する以下の視聴環境、免責事項を視聴前に必ずご確認ください。

<視聴環境について>

- ・ 本設立記念シンポジウムはZoomウェビナーで配信を行います。ご本人宛にお送りした配信用URLからご入場いただけます。
- ・ ご使用のPC環境、インターネット回線の状況が視聴環境にあるかご確認ください。
環境によって映像や音声途切れるなど正常に視聴できないことがあります。なお、ご視聴にあたっての技術的なお問合せにはご回答いたしかねます。

<免責事項について>

- ・ 本設立記念シンポジウムに関わる抄録ならびにWeb視聴で掲載されるスライド(画像・動画などを含む)に関して、ビデオ撮影・録録音・写真撮影(スクリーンショットを含む)を行い、Web上(SNSを含む)に公開することは目的の如何を問わず固くお断りをさせていただきます。
- ・ 本コンテンツは、本Web講演会・シンポジウムの視聴のみとさせていただきます。
- ・ 著作権者の許諾を得ずに複製、上映、公衆送信、展示、頒布、譲渡、貸与などの二次的利用等を行うことは著作権を侵害する行為であり、刑事責任を問われる可能性があります。

<その他>

- ・ 講演者、並びに事務局へのご質問は、セミナー配信画面の下方にある「Q&A」ボタンをクリックいただき、ご質問を記入ください。
- ・ ご質問は講演中にもご記入いただけます。ご質問をご記入の際は、最初に【講演者名】をご記入いただき、どの講演者へのご質問か明記いただきますよう、ご協力の程よろしくお願いいたします。
- ・ ご質問事項は、講演者ならびに事務局のみが見ることができます。他の参加者には表示されません。
- ・ ご質問は、講演者より適宜口頭でご回答いたします。
- ・ 進行状況等の理由により、全てのご質問には回答できない可能性がございます。あらかじめご了承ください。

memo

特別講演

特別講演1

タイトル: **老年学領域における療法士への期待**

荒井 秀典 理事長

国立長寿医療研究センター

座長 **島田 裕之** センター長

国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター

特別講演2

タイトル: **健康寿命延伸における療法士の役割と期待**

鈴木 隆雄 教授

桜美林大学大学院

座長 **牧迫 飛雄馬** 教授

鹿児島大学 医学部保健学科理学療法学専攻

特別講演 1

9月18日(土) 9:40～10:20



タイトル: 老年学領域における療法士への期待

荒井 秀典 理事長

国立長寿医療研究センター

座長: 島田裕之 センター長

国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター

■学歴

昭和59年 京都大学医学部卒業

平成 3年 京都大学医学部大学院医学研究科博士課程(内科系専攻)修了

■職歴

昭和59年 京都大学医学部附属病院内科勤務

昭和60年 島田市立島田市民病院勤務

平成 3年 京都大学医学部老年科医員

平成 3年 同上 助手

平成 5年～平成 9年 カリフォルニア大学サンフランシスコ校ポスドクトラルフェロー

平成 9年～平成15年 京都大学医学部老年内科助手

平成14年～平成16年 文部科学省研究振興局学術調査官

平成15年～平成21年 京都大学大学院医学研究科加齢医学 講師

平成21年～平成26年 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 教授

平成27年～平成30年 国立長寿医療研究センター 副院長

平成27年～平成31年 国立長寿医療研究センター老年学・社会科学センター長

平成29年～ 国立陽明大学客員教授

平成30年～平成31年 国立長寿医療研究センター 病院長

平成31年～ 国立長寿医療研究センター 理事長

令和元年～ 同志社大学客員教授

■賞罰

平成26年 JAT(Journal of Atherosclerosis and Thrombosis)賞

令和 3年 John Morley Award

■所属学会・その他

日本サルコペニア・フレイル学会 代表理事

日本老年医学会 副理事長・代議員

日本老年学会 理事長

日本動脈硬化学会 副理事長・評議員

日本老年薬学会 理事

日本脆弱性骨折ネットワーク 理事

Vice President of Asian Association for Frailty and Sarcopenia

Asian Academy of Medicine for Ageing (President)

Secretary General of the Asia Pacific Federation of International Atherosclerosis Society

IAGG council member

日本学術会議第25期 会員(第2部、臨床医学委員会)

日本老年療法学会 特別顧問など

memo

タイトル: 老年学領域における療法士への期待

令和2年、わが国の高齢化率は28.7%、そして75歳以上人口も約15%となっており、世界一の超高齢社会である。今後高齢化はさらに進み、国民の約40%が高齢者となる時代が20年以内にやってくる。高齢化とともに慢性疾患を多く合併した高齢者や認知機能低下、フレイルを合併した高齢者が増加している。また要介護・要支援の認定を受ける高齢者も700万人に近づいている。このように医療・介護を取り巻く環境はますます厳しさを増しており、社会の変化に応じて医療専門職の役割もまた複雑になっており、多職種協働の重要性が高まっている。高齢者においては、疾病予防とともにフレイル・サルコペニア予防が、要介護状態とならないためには重要であり、また疾患によって生活機能が衰えた高齢者に対しては、生活機能を回復させるようなアプローチが必要である。すなわち、理学療法、作業療法、言語聴覚療法の役割が、地域における予防事業から急性期、亜急性期、慢性期、在宅へと広がりを見せており、同時に医師、歯科医師、看護師、保健師、管理栄養士、薬剤師、ケアマネジャーなど多職種協働による地域包括ケアの重要な担い手として療法士の役割・活動範囲がますます大きくなると考えられる。さらに、予防から人生の最終段階までを支える専門職として、その専門性を生かしながら、研究成果を上げることも期待されている。本講演においては、このような医療介護環境を踏まえて療法士及び日本老年療法学会への期待について述べたい。

memo

特別講演2

9月18日(土) 10:20～11:00



タイトル: **健康寿命延伸における療法士の役割と期待**

鈴木 隆雄 教授

桜美林大学大学院 国際学術研究科
国立長寿医療研究センター 理事長特任補佐

座長: 牧迫 飛雄馬 教授 鹿児島大学 医学部保健学科理学療法学専攻

■学歴

昭和51年 札幌医科大学医学部卒業
昭和57年 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了

■職歴

昭和63年	札幌医科大学助教授	平成12年	同研究所 副所長
平成 2年	東京都老人総合研究所 疫学研究室長	平成21年	国立長寿医療センター 研究所所長
平成 7年～平成17年	東京大学大学院客員教授(生命科学専攻分野)	平成27年	桜美林大学 老年学総合研究所所長(大学院教授)
平成 8年	東京都老人総合研究所 疫学研究部長		国立長寿医療研究センター 理事長特任補佐(現在に至る)

■その他

平成12年	東京都知事賞受賞	令和3年	日本老年療法学会 特別顧問
平成18年	日本骨粗鬆症学会学術振興賞受賞		
平成22年	遠山椿吉賞「健康予防医療大賞」受賞		

■主要公職

平成19年 社会保障審議会(人口部会委員就任)
平成28年 社会保障審議会(介護保険部会就任)等

■主要著作

平成23年 「超高齢社会の基礎知識」(講談社現代新書)
平成31年 「超高齢社会のリアルー健康長寿の本質を探るー」(大修館書店)他多数

memo

タイトル:健康寿命延伸における療法士の役割と期待

超高齢者社会を迎えた我が国にあって「健康日本21(第二次)」に謳われるように健康寿命の延伸は最も重要な課題のひとつにあげられています。高齢者人口の急増と平均寿命の著しい延伸によって高齢者の健康水準は大きく変容していますが、後期高齢者におけるフレイルを中心とした老化に伴う多様な疾病や障害への対応・対策はより複雑化し、シームレスなケアサービスが必要とされるようになっていきます。このような現状のなかで、高齢者の健康に携わる理学療法士、作業療法士そして言語聴覚士の三療法の専門職に共通する課題を掲げ、連携するために「日本老年療学会」が設立されたことは極めて時宜にかなっており、心から祝意を表したいと思っています。

本学会は高齢者の保健・医療・福祉（介護）を中心とした調整・研究（特にアクションリサーチ）および包括的・全人的ケアサービスのあり方に関する実践的研究とその評価の場となると期待されます。特に三療法士の連繋による健康寿命の延伸および高齢者のQOLの維持・向上に関わるエビデンス・ベイスト・メディシン（Evidence Based Medicine: EBM）の構築が喫緊の課題になると思われます。私の講演でもEBMの視点から1990年代以降の日本人高齢者の健康水準の変動を中心としてフレイルや認知症に関わる話題提供をしたいと考えています。

memo

シンポジウム

テーマ

健康寿命延伸と療法士

理学療法士の立場から

土井 剛彦 予防老年学研究副部長

国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター予防老年学研究

作業療法士の立場から

田平 隆行 教授

鹿児島大学 医学部保健学科作業療法学専攻

言語聴覚士の立場から

外山 稔 准教授

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部言語聴覚学科

座長 **山田 実** 教授

筑波大学 人間系

シンポジウム

9月18日(土) 11:00~12:00



テーマ:健康寿命延伸と療法士 「理学療法士の立場から」

土井 剛彦 予防老年学研究副部長

国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター
予防老年学研究部

座長：山田 実 教授 筑波大学 人間系

健康寿命延伸は超高齢社会における重要施策の一つであり、国策として健康長寿社会実現のために具体的な目標の設定とプラン策定がなされている。健康寿命延伸のために講じるべき対策の一つとして、フレイル・認知症対策を通じた介護予防が掲げられている。フレイルと認知症はそれぞれ要介護の原因における上位を占め、フレイル・認知症に対する予防対策が十分に行われれば介護費用の削減になるとの試算もなされた。健康寿命の延伸を目指すには、機能障害を引き起こすような疾患の予防や適切な対応だけでなく、フレイルや軽度認知障害(mild cognitive impairment: MCI)のような機能低下を防ぐことや適切な対策を講じることで、要介護状態にならないことが重要である。フレイルは要介護状態とロバスト(健常)の間にある状態であり、MCIは認知症の前駆段階で認知症ではないが認知機能低下がみられる状態とされ、いずれも要介護状態になるリスクは高い反面、機能低下を抑制し時には改善することが可能であることが知られている。これらの機能低下を適切に評価し、適切な介入を促し、時には直接介入を行う役割を療法士や各専門職が担っている。理学療法士は、高齢者の身体機能評価や運動介入にたずさわる場面を多く持ち、実際、通いの場での運動指導に関与している専門職としても比較的割合が高いとされている。一方で、高齢者の機能低下は多岐にわたり、フレイル・認知症に関連する要因も多様であるため、作業療法士や言語聴覚士はもちろんのこと、各専門職と連携し、対応することが必要であると考えられる。

■経歴

平成19年 株式会社プライムワン メディケアシステム 訪問看護リハビリセンター
平成22年 国立長寿医療研究センター・研究員
平成24年 神戸大学大学院保健学専攻博士課程後期課程 修了
平成27年 Albert Einstein College of Medicine 外来研究員

平成29年 国立長寿医療研究センター・健康増進研究室長
令和 3年 国立長寿医療研究センター・予防老年学研究副部長(現在に至る)
非常勤講師: 神戸大学、畿央大学、藍野大学、新潟医療福祉大学、信州大学

■受賞歴

平成24年 第4回藤田リハビリテーション関連施設臨床研究会 最優秀賞
平成26年 第49回日本理学療法学会 優秀賞
平成28年 Geriatrics & Gerontology International the 2015 Best Article Award受賞
平成28年 第8回理学療法学会優秀論文 最優秀賞

平成29年 第52回日本理学療法学会 優秀賞
平成30年 第5回予防理学療法学会 大会長賞
令和元年 第9回日本認知症予防学会学術集会 浦上賞
令和 2年 日本老年医学会YIA受賞

■社会活動

平成29年~令和3年 日本理学療法士学会 編集委員会 査読委員
平成29年~ 愛知県理学療法学会 学術誌部員
令和 2年~ 日本サルコペニア・フレイル学会 評議員
令和 2年~ 日本規格協会「健診現場等におけるセンサを用いた歩容測定・歩行評価に関する国際標準化」委員会

令和3年~ 日本理学療法士学会 編集委員会 編集委員
令和3年~ 日本予防理学療法学会 評議員
令和3年~ 日本老年療学会 副理事長

シンポジウム

9月18日(土) 11:00~12:00



テーマ:健康寿命延伸と療法士 「作業療法士の立場から」

田平 隆行 教授

鹿児島大学医学部保健学科作業療法学専攻

座長：山田 実 教授 筑波大学 人間系

作業療法は、人・作業(生活行為)・環境の相互関係を考慮し、「作業に焦点を当てた治療、指導、援助」(日本作業療法士協会2018)を行う。そしてICFの個人・環境因子、活動・参加を重視し、生活行為の障害のみ着目するのではなく、「できる」部分を活かした介入に心がけている。

地域在住高齢者の認知機能低下予防に社会・余暇活動の影響は知られているが、活動の種類のみならず個人にとって大切な活動(Meaningful activity)であるかという点は活動の継続に関与すると考えている。我々の研究室では地域在住高齢者に対して作業意思決定支援ソフト(ADOC)を用いて大切な活動を調査しており、その満足度は抑うつの影響因子であり(Maruta et al, 2020)、軽度認知障害者においてもアパシーと関連した(Maruta et al, 2021)。大切な活動に従事し満足することは抑うつやアパシー等の精神健康に好影響をもたらす可能性がある。他方、軽度認知障害・認知症高齢者は、認知機能低下に伴い服薬・金銭管理などの複雑なIADLから障害され、次第にBADLまで障害される。作業療法では、生活行為の工程分析を学生時代に学修するが、高齢者の認知機能低下に伴いどのような工程が障害されやすく、残存しやすいかは不明であった。我々は厚生労働科学研究にて生活行為工程分析表(PADA-D)を開発し(田平ほか, 2019)、在宅アルツハイマー病患者や主観的もの忘れ高齢者の生活行為障害と残存の特徴を調べてきた。例えば、調理では献立や味付けは苦手な一方、切る・剥くなどの手続き的記憶を要する工程は重度者でも残存しやすい傾向にあった。現在、介入研究の結果をまとめており、工程分析にて介入ポイントを明確にし、残存する認知機能の活用や環境介入等で部分的な生活行為の向上に寄与する可能性を見出している。詳細は当日紹介したい。

■経歴

平成5年	長崎大学医療技術短期大学部作業療法学科 卒業	平成17年	国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科博士後期課程 修了
平成5年	医療法人春回会長崎北病院 作業療法士	平成19年	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻 助教
平成13年	国際医療福祉大学保健学部作業療法学科 助手	平成23年	西九州大学リハビリテーション学部 准教授
平成16年	長崎大学医学部保健学科 助手	平成28年	鹿児島大学医学部保健学科作業療法学専攻 教授

■委員会等

平成16年	日本作業療法研究学会 事務局長	平成29年	鹿児島身障・高齢期作業療法勉強会 代表
平成23年	日本作業療法士協会 学術誌「作業療法」編集協力委員、学術部員	平成30年	Review Circle on Rehabilitation for Dementia 代表
平成27年	日本作業療法士協会 認知症の人の生活支援推進委員会委員	令和2年	作業療法ジャーナル 編集協力者
平成29年	日本作業療法士協会 学術部学術委員会研究推進班 班長	令和3年	日本老年療法学会 理事

シンポジウム

9月18日(土) 11:00~12:00



テーマ:健康寿命延伸と療法士 「言語聴覚士の立場から」

外山 稔 准教授

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 言語聴覚学科

座長：山田 実 教授 筑波大学 人間系

超高齢社会に直面しているわが国では、高齢者が抱える疾患や障害の理解が求められるとともに、急増する認知症への対応が課題となっている。2017年に公表されたLancet委員会の論文では、認知症発症に寄与する介入可能なリスク因子として“中年期の難聴”が挙げられ、2019年に公開された「認知機能低下および認知症のリスク低減に関するWHOガイドライン」では、その具体的介入に“難聴の管理”が記載されたことは記憶に新しい。

加齢性難聴は、加齢とともに有病率が高くなる代表的な老年病の一つである。国立長寿医療研究センター・老化に関する長期縦断疫学研究(NILS-LSA)においても、難聴の有病率は65歳以上で急激に増加し、認知機能の経年変化に影響を与えることが報告されている。難聴は高齢者の身体に直接的な影響を与えるものではないが、コミュニケーション障害の原因となり、社会的孤立やうつを引き起こす要因となり得る。近年では、難聴と脳萎縮(脳容積)に関する研究、補聴器装用とエピソード記憶、ワーキングメモリに関する研究なども散見され、聴覚補償による認知症予防のエビデンス構築が期待される。

一方、加齢性難聴の特徴は、聴力閾値の上昇に比べて語音明瞭度が低下することであり、補聴器装用のアウトカムは装用閾値や最高語音明瞭度に必ずしも依拠しない。このことは、補聴器装用後の認知機能や音声言語を用いた課題成績にも影響する。補聴器が高齢者の日常生活で効果を発揮するには、補聴周辺機器の検討、アサーティブな態度への誘導、コミュニケーションストラテジーの活用などの支援が必要である。コミュニケーションに関わる専門職“言語聴覚士”による健康寿命延伸への積極的な介入を期待したい。

■経歴

平成15年 九州保健福祉大学 保健科学部 言語聴覚療法学科 卒業
 平成15年 厚生年金事業振興団 湯布院厚生年金病院リハビリテーション室 言語聴覚士
 平成24年 同リハビリテーション部 言語聴覚主任技師
 平成26年 大分大学大学院 医学系研究科 修士課程修了
 平成26年 京都学園大学 教育開発センター 健康医療学部設置準備室 助教
 平成27年 京都学園大学 健康医療学部 言語聴覚学科 講師
 平成31年 京都先端科学大学(旧京都学園大学) 健康医療学部 言語聴覚学科 准教授
 令和 元年 金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 博士後期課程修了
 令和 2年 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 言語聴覚学科 准教授
 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 言語聴覚分野 准教授
 令和 3年 日本老年療法学会 理事
 (現在に至る)

大会長講演

タイトル

日本老年療法学会の設立趣旨と今後の目標

島田 裕之 センター長

国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター

座長 池田 望 教授

札幌医科大学 保健医療学部作業療法学科

後援:第一生命保険株式会社

大会長講演

9月18日(土) 12:00～12:50



タイトル:日本老年療法学会の設立趣旨と今後の目標

島田 裕之 センター長

国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター

座長：池田 望 教授 札幌医科大学 保健医療学部作業療法学科系

高齢者は加齢に伴う機能低下に加え、多彩な慢性疾患を併存する場合が多く、これらが機能回復を阻害する。一方、リハビリテーションの対象の多くは高齢者であり、セラピストは高齢者の特徴を理解して治療やケアに臨む必要がある。また、原因疾患が複数あると当然症候も複雑化して、単独の職種では対応しきれない場合も多い。そのため、医療分野ではチーム医療が行われ、地域においては地域包括ケアシステムを推進している。例えば、栄養サポートチームでは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、歯科医師、歯科衛生士などの多様な職域が連携して多面的なアプローチを行っている。また、地域包括ケアシステムにおいては医療のみではなく、住まい、介護、生活支援が一体的に提供されるために、より多くの職域の連携が求められる。

リハビリテーションは障害者の自立を支援するために、多様な職種が連携して実施されるが、その専門性が向上するにつれて機能分化が進み、効果的で効率の良いアプローチが可能となった。しかしその反面で、他の専門領域への理解や関心が希薄化してきているのではないかと個人的には危惧している。最善のリハビリテーションを提供するために、個々の知識や技能を研鑽するとともに、チーム内の理解を深め役割分担を明確化することが重要であろう。そのためには、多領域の専門職種が一同に集って議論を深める場を作ることが必要と考え、日本老年療法学会を設立するに至った。この数年の目標は、学会員を増やして多様な意見交換ができる人的基盤を強化し、高い学術的発信ができる学会誌の刊行を軌道にのせることとしている。

■経歴

平成15年 北里大学大学院医療系研究科臨床医学リハビリテーション医学専攻博士課程卒
 平成15年 東京都老人総合研究所研究員
 平成17年 Prince of Wales医学研究所客員研究員
 平成18年 東京都老人総合研究所研究員
 平成22年 国立長寿医療研究センター室長
 平成26年 国立長寿医療研究センター予防老年学研究部長
 平成27年 名古屋大学未来社会創造機構客員教授(現在兼任)
 平成27年 信州大学大学院総合医理工学研究科客員教授(現在兼任)
 令和元年 国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター長(現職)
 令和元年 同志社大学研究開発推進機構客員教授(現在兼任)
 令和3年 日本老年療法学会 理事長

共催セミナー

インターリハ株式会社

タイトル: **高齢者医療における多職種連携の重要性**

前田 圭介 医長

国立長寿医療研究センター 病院 老年内科

座長 **島田 裕之** センター長

国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター

株式会社ツクイホールディングス

タイトル: **介護の企業が取り組む高齢者支援へのチャレンジ**

波戸 真之介 シニアスペシャリスト

株式会社ツクイホールディングス グループ戦略室

座長 **金子 文成** 特任准教授

慶應義塾大学 医学部 リハビリテーション医学教室

共催セミナー1

9月18日(土) 13:00~13:50



タイトル:高齢者医療における多職種連携の重要性

前田 圭介 老年内科医長

国立長寿医療研究センター 病院 老年内科

座長: 島田 裕之 センター長

国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター

高齢者の多い社会において高齢者医療の在り方が問われている。本邦の総人口は2008年をピークに徐々に減少基調であるものの、65歳以上高齢者の人口は依然として増加していくことが見込まれる。世界でも類を見ない高齢者数・率を抱えていることに加えて近い将来、未曾有の数値に至る。このような日本において、高齢者医療はどうあるべきか、根本的な議論が必要であると思われる。

従来実施されてきた医療は、高齢者医療に特化した手法ではなかったかもしれない。疾病や状態を明らかにする診断学とその疾病に対する治療学が現行の医療体系の大半を占める。診断は客観的事実と症状や経過の情報をを用いて行われる。治療は下された診断とその疾病の程度を勘案し、薬物療法や手術、行動介入が選択される。この一連のプロセスは、一般的な成人であれば間違いなく効果的で効率の良い医療といえる。しかしながら、高齢者にとって従来手法が最適かどうかという疑問がある。

高齢者は若年成人に比べ、機能的な余力、環境因子、個人因子に問題を抱えている。薬剤や従来治療への反応が異なるかもしれない。また、治療に対する受容や耐久性も若年成人と比べ低下していることが推察される。患者が求めている治療のゴール自体に差がある可能性もある。老年医学において、高齢者総合機能評価という多面的かつ包括的な多職種介入の有用性はよく知られている。疾病だけにとらわれるのではなく、高齢者を取り巻くすべての要素について多職種で検討し、経時的に柔軟に治療的な介入をするというプロセスである。高齢者総合機能評価や類似するアプローチ法を例に挙げ高齢者医療における多職種連携の重要性について概説する。

■経歴

平成10年 熊本大学 医学部医学科 卒業

平成18年 熊本大学 大学院卒 博士(医学)

平成23年 玉名地域保健医療センター摂食嚥下栄養療法科 NSTチェアマン

平成29年 愛知医科大学大学院緩和・支持医療学 講師

令和元年 愛知医科大学大学院緩和・支持医療学 准教授

令和2年 国立長寿医療研究センター 老年内科 医長(現職)

愛知医科大学大学院緩和・支持医療学 客員教授

memo

共催セミナー2

9月18日(土) 14:00~14:50



タイトル:介護の企業が取り組む高齢者支援へのチャレンジ

波戸 真之介 シニアスペシャリスト

株式会社ツクイホールディングス グループ戦略室

座長：金子文成 特任准教授

慶應義塾大学 医学部 リハビリテーション医学教室

当グループの株式会社ツクイでは在宅介護や居住系介護サービスを提供しており、当然だが主な対象は要介護者高齢者として既に健康寿命を迎えた方々である。令和2年版厚生労働白書によると、2016年時点では平均寿命と健康寿命の差が男性で8.84年、女性で12.35年と示されており、その期間がおおむね要介護状態で過ごす期間と考えることができる。健康寿命を延伸し要介護状態の期間をいかに短くできるか、ということは大きな課題であるが、他方で要介護状態となった(=健康寿命を迎えた)後の人生をいかに充実して過ごしてもらうか、という課題も同様に重要である。

そこで本セミナーでは、当グループが企業理念で掲げている『超高齢社会の課題に向き合い人生100年幸福に生きる時代を創る』に沿って、取り組んでいる二点を紹介したい。

ひとつは積極的に療法士配置を進めている取り組みである。デイサービスや有料老人ホームでは療法士の配置は必須要件となっていないが、いかに生活を守り豊かにするかという点で療法士の活躍する場はいくらでもある。今後も我々療法士は地域包括ケアの一員として、より実際の生活の場に近い領域へ積極的に踏み込んでいくべきであろう。

もうひとつは、高齢者における生活全般の課題解決に向けてデジタル技術を積極的に活用しようという取り組みである。これはトレーニングマシンや映像解析による評価機器といったスタッフが運用する機器に限らず、利用者や家族側がスマートフォンを活用することでもっと生活を豊かにできるのではないかといった検討も含んでいる。

上記の紹介をしつつ、人生100年幸福に生きる時代に向けて、我々はどういった進歩をするべきなのかここで議論を深めたい。

■経歴

平成21年 札幌医科大学 保健医療学部理学療法学科 卒業

平成23年 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科博士課程前期 修了(理学療法士)

平成23年 株式会社ツクイ 入社

令和 3年 株式会社ツクイホールディングス グループ戦略室 シニアスペシャリスト

memo

協力企業一覧

日本老年療法学会 設立記念シンポジウムを開催するにあたり、
下記の皆さまよりご協力を賜りました。

ここに深甚なる感謝の意を表します。

日本老年療法学会 設立記念シンポジウム
大会長 島田 裕之

(50音順)

アイホン株式会社
アボットジャパン合同会社
株式会社医学書院
医歯薬出版株式会社
株式会社伊藤園
インターリハ株式会社
株式会社INTEP
エーザイ株式会社
有限会社追坂電子機器
大塚製薬株式会社
花王株式会社
株式会社クリニコ
株式会社コンフォート
シーホネンス株式会社
株式会社スキノス
株式会社青海社
SOMPOホールディングス株式会社
第一生命保険株式会社
株式会社タニタ
株式会社ツクイホールディングス
株式会社ホームイオン研究所
株式会社メジカルビュー社



hvc
human health care

患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合いたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病気を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ



エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。



NUTRITION



バニラ味 コーヒー味 メロン味 黒糖味 バナナ味 ストロベリー味 抹茶味

※味の違いは香料によるもので、本剤にはバニラ、コーヒー、メロン、黒糖、バナナ、ストロベリー、抹茶などの成分は含まれておりません。

経腸栄養剤(経口・経管両用)

薬価基準収載

インシュア・H

「効能・効果」、「用法・用量」、禁忌を含む「使用上の注意」等については製品添付文書をご参照ください。

製造販売元
アボットジャパン合同会社 株式会社 明治
東京都港区三田三丁目5番27号

【資料請求先】アボットジャパン合同会社 お客様相談室 フリーダイヤル **0120-964-930**

2021年7月作成

日本初、 「認知機能対策」 お抹茶、できました。

伊藤園
自然が好きです。

伊藤園の長年の研究によって
茶葉に含まれるテアニンと茶カテキンが、
認知機能^{※2}の精度を高めることが報告されました。

外出がためられる今だからこそ、
お茶の時間に抹茶をいただき、
会話を楽しむことで、笑顔になれば。

お茶の力で人類を幸せにする。
それが、私たち伊藤園の目指す道です。

※1 テアニンと茶カテキンを組み合わせた
認知機能カテゴリーの機能性表示食品は
伊藤園が初。(2020年伊藤園調べ)

※2 認知機能の一部である注意力・判断力
(機能性関与成分：テアニン・茶カテキン)



スティックタイプ
6本

1日摂取目安量
2本(3.4g)

届出番号：E822



ボトルタイプ

1日摂取目安量
2本(740ml)

届出番号：E805



【機能性表示食品】本品には、テアニン・茶カテキンが含まれます。テアニン・茶カテキンには、年齢とともに低下する認知機能のうち、注意力(注意を持続させて、一つの行動を続ける力)や判断力(判断の正確さや速さ、変化する状況に応じて適切に処理する力)の精度を高める機能があることが報告されています。認知機能(注意力・判断力)が気になる方に適しています。
●本品は、事業者の責任において特定の保健の目的が期待できる旨を表示するものとして、消費者庁長官に届出されたものです。ただし、特定保健用食品と異なり、消費者庁長官による個別審査を受けたものではありません。●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。





SOMPO ホールディングス

安心・安全・健康のテーマパーク

SOMPOグループは、あらゆる人が自分らしい人生を健康で豊かに楽しむことのできる社会を目指し、「世界に誇れる豊かな長寿国日本」の実現に向け、さまざまな取り組みを行っています。

Event 「認知症に備える・なってもその人らしく生きられる社会」の実現に向け9月の世界アルツハイマー月間にあわせ、認知症に関するさまざまな啓発イベントを開催しています。

共に生きる ～認知症を考えるセミナー～

今年は～Talk with～をテーマに開催します。

これまでは少し話しづらかった「認知症についてのこと」。しかし、決して他人事ではない、そのことについて、思うところを夫婦や、親子、ときには企業と個人の間でも正面から本音で話し合う。認知症を話題にすることがもっとオープンになる。そんな「きっかけ」をつくるテーマです。

Talk with

話そう、認知症のこと。



日時 9月26日(日) 13:00～15:00(予定)

開催形式 オンライン形式

お申込みURL <https://que.digital.asahi.com/question/11005285>



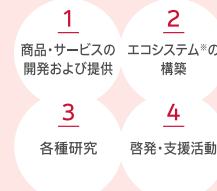
損保ジャパン本社ビルのライトアップ

世界アルツハイマーデー当日である9月21日に、損保ジャパン本社ビルを認知症支援のテーマカラーであるオレンジ色でライトアップしています。

日時 2021年9月21日(火) 19:00～21:00

認知機能低下の予防から認知症ケアまで、グループ横断で取り組む「SOMPO認知症サポートプログラム」

認知症が社会的課題となる中、SOMPOはグループ全体で、認知機能低下の予防サービスと経済的な備えを提供する保険、そしてSOMPOケアの介護と独自の認知症応援プロジェクトに取り組んでいます。



※外部の企業、団体等のパートナーと連携し、お互いに影響しながら機能を高め、共存していく仕組み

SOMPOの取り組み ～商品・サービス～



出典：日本神経学会「認知症疾患診療ガイドライン2017」を基に作成

SOMPOスマイル・エイジングプログラム

※認知機能低下を予防するために、科学的根拠に基づき開発された「SOMPOスマイル・エイジングプログラム」。「認知症の備え」としてSOMPOケアが提供するトータルパッケージプログラムです。

プログラム構成



SOMPOホールディングス株式会社

シニアマーケット事業部 認知症プロジェクト推進室
照会先: event-info@sompocare.com



Mobile Solution

スマートフォンの情報処理能力、表示能力を活用した
看護のための新しいモバイルソリューション
ナースコールと連動し、看護業務の機動性を高めます。

ナースコールシステムを活用した
医療安全・教育と看護の質の向上への取り組みは
いつでもアイホンにご相談ください。

映像が見える、情報が見える、ナースコール

Vi-nurse
ビーナース



品質管理の最高賞
デミング賞受賞



JQA-Q291
該当製品
標準品・受注品



JQA-EM0453
本社部門 豊田工場
大宮サイト 開発センター



アイホン株式会社

名古屋電設営業所
TEL: (052) 321-9522

アイホン

検索

医学書院 関連書籍のご案内

QRコードから書籍の詳細がご覧いただけます

対象者の気持ちに寄り添うために、いまリハビリテーションができること。



QOLを高める 認知症リハビリテーション ハンドブック

編集 今村 徹・能登真一

●B5 2020年 頁200
定価:4,180円(本体3,800円+税)
[ISBN978-4-260-04162-1]



ナラティブを超えたエビデンスベースのリハビリテーション介入戦略



Evidence Basedで考える 認知症リハビリテーション

編集 田平隆行・田中寛之

●B5 2019年 頁312
定価:4,620円(本体4,200円+税)
[ISBN978-4-260-03923-9]



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 <https://www.igaku-shoin.co.jp> [販売・PR部]

TEL:03-3817-5650
FAX:03-3815-7804

E-mail:sd@igaku-shoin.co.jp



3STEPで認知症予防

コグニサイズ 指導マニュアル

島田裕之 編集

B5判 168頁
定価4,180円(本体3,800円+税10%)
ISBN978-4-263-26619-9

国立長寿医療研究センターが開発した、認知症予防に効果的な運動「コグニサイズ」の初の指導書。対象者の動機づけや行動変容技法、楽しく続けられるヒントを、豊富なイラストとともに解説。



フレイルの予防と リハビリテーション

島田裕之 編集

B5判 192頁
定価3,960円(本体3,600円+税10%)
ISBN978-4-263-21943-0

フレイルの基本から評価・予防法まで最新知見をもとに解説！
特に重要とされる「運動」「栄養」「認知機能向上」の具体策を紹介。
臨床での実践指導に役立つ内容を満載した充実の一冊。



医歯薬出版株式会社 〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10

TEL03-5395-7610
FAX03-5395-7611

<https://www.ishiyaku.co.jp/>



エンジョイ クリミール

毎日の栄養補給をおいしくサポート！



他にも、豊富なラインアップがあります。資料・サンプル等のご請求はお気軽に。

☎ 0120-52-0050 受付時間：平日 9:30 ~ 17:00
(土日祝日・年末年始・5/1 除く)

クリニコ

検索

<https://www.clinico.co.jp>

森永乳業グループ病態栄養部門
株式会社クリニコ

医療施設ベッド AX Series

早期退院

経口摂取による
在院日数短縮

口腔機能管理やオペ後早期の
経口摂取開始は、在院日数
を短縮するという報告もあり
ます。
食事摂取時の誤嚥リスクを
低減する姿勢をサポートします。

電動ヘッドレスト機能

電動ヘッドレスト
機能
0~30°



前向き視線

嚥下のしやすい
適切な角度に！

業界初 頭頸部の角度調節が可能！！

ヘッドレスト機能を使うと、頸を引いた「誤嚥しに
くい姿勢」を安定的に再現できます。

ポジショニングサポート



自立促進

自立促進・重度化防止の
取り組み推進

肘を固定することで肩や腕の重さ
を緩和し、頸部周りの緊張を緩める
ことができ、ご利用者自身で食事
しやすいだけでなく、読書や裁縫
などの趣味や作業も、快適に行っ
ていただけます。



サイドテーブル PT-7000F とセットで介護保険もご利用いただけます。

シーホネンズ株式会社 ☎ 0120-20-1001

【本社】〒537-0001 大阪市東成区深江北3-10-17 TEL:(06)6973-3471 FAX:(06)6973-3440

【拠点】札幌/仙台/東京/神奈川/名古屋/大阪/高松/広島/福岡/宮崎/南九州/沖縄

AXシリーズ製品情報

シーホネンズ AX

検索



笑(エミ)テーブル紹介動画

YouTube

シーホネンズ 笑テーブル

検索



(4分弱動画)

発汗の基礎研究はもちろん、情動や快適性の簡便かつ有効な評価指標として。

発汗様相を可視化する唯一のテクノロジー。

発汗センサ SKW-1000

換気カプセル型発汗計の
原理を利用した
ウェアラブルセンサ。



- 日常生活や運動中の局所発汗量を無拘束で計測可能
- 皮膚装着センサ部のみ交換することも可能
- PCはもちろん、Androidスマートフォン・タブレットを用いたデータ記録が可能

※本機は研究用機器です。臨床用途ではご利用いただけません。
※本機は簡易な発汗センサです。

SKINOS

株式会社スキノス / スキノス東御研究所

お問合せ先

TEL : 0268-75-9071 FAX : 0268-75-9072

E-mail : info@skinos.co.jp URL : <http://www.skinos.co.jp>



身体機能レコードシステム FG-001

タブレット&クラウドで 測定・撮影・データ管理を支援

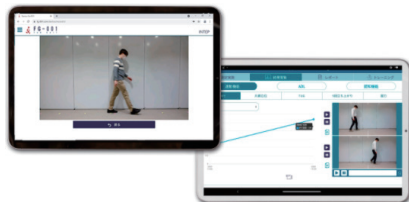
実装項目
運動機能：歩行速度・歩幅、片脚立位、TUG
5 回立ち上がり、握力
ADL：FIM, Barthel Index, NCGG-ADL
認知機能：HDS-R, MSQ

使用するのはタブレット 2 台

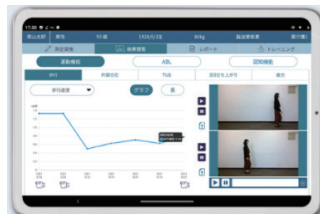
グラフと動画アルバムを自動作成

充実したレポートとトレーニングの自動紹介

脳とからだの機能。
価値ある情報を未来へ



- タブレットだから持ち運び楽々
- いつでもすぐに測定結果の入力や閲覧が可能
- 遠隔操作で対象から離れずに動画撮影を開始・終了
- 歩行動画を撮影するだけで自動的に歩行速度を算出



- 保存されたデータからグラフを自動作成し見える化
- 過去と今をグラフ・動画で簡単比較



- 各種測定結果からレポートを自動作成
- レポートは運動機能, FIM, Barthel Index, HDS-R と充実したラインナップ
- 34 種類のわかりやすいトレーニングマニュアル
- 測定結果に基づきボタン 1 つでトレーニングを紹介

脳とからだの機能。
価値ある情報を未来へ

各種情報はこちら



株式会社 INTEP (インテップ)
INTEP はアカデミア初ベンチャー企業です
E-mail: info@intep.co.jp

有限会社 追坂電子機器

～身体機能計測技術の様々な分野への適用／導入をお手伝いすることでイノベーション創出に貢献～

既存のものではニーズを満たすことが出来ない場合、
特注製作から既存製品のカスタマイズまで幅広く対応させて頂きます。お気軽に御声掛け下さい。

Tel : 084-963-2890
Mail : info-oisaka@oisaka.co.jp

Fax : 082-553-0250
Web : http://www.oisaka.co.jp/

ワイヤレス筋電センサ



¥95,000(税別)～

筋電センサと無線機能を一体化させたワイヤレス筋電センサ。小型筐体内部に、無線、アクティブ電極、大容量メモリなどを搭載し、手軽な筋電計測を実現。
さらに、同サイズ筐体に3軸加速度センサを搭載した先進的モデルもご用意しています。

2軸ゴニオメータ



¥150,000(税別)

柔軟で高精度の角度変位計測を特徴とし、工業用途から人間の動きの計測まで幅広く活用できる角度センサです。

- ・高精度な計測を可能にする精密な再現性
- ・ゼロ温度ドリフト
- ・軽量でフレキシブルな装着感
- ・高い耐ノイズ性能
- ・100万サイクルを超える高寿命
- ・優れた耐湿性

非侵襲性喉頭挙上計測装置



Nodomiru
- ノドミル -

¥300,000(税別)

ノドミルは、距離センサレイによる非侵襲型の嚥下運動計測装置です。頭部に押し当てるだけで簡単に喉頭部分の形状化を記録することができ、嚥下や発声の解析やリハビリ時の視覚バイオ フィードバックなどにご利用頂けます。

立位機能補助装置



StABLE

¥200,000(税別)～

StA²BLEは、指先への振動刺激で筋骨格系と感覚系の機能をわずか1分で定量化できる世界初の転倒リスク検査装置です。転倒リスクの客観的な評価指標「立位年齢R」とそのリスクの要因を算出できるため転倒予防訓練効果の検証や姿勢制御に関する研究にも最適です。

※研究開発用ライブラリもご用意しています。

Otsuka-people creating new products
for better health worldwide



大塚製薬株式会社
東京都千代田区神田司町2-9

タニタなら

筋肉を多面的に評価

カタログの
ご依頼など

TANITA
Healthy Habits for Happiness

お気軽に
お問い合わせください

株式会社タニタ ライフソリューション営業部

TEL 03-3558-8111

Email lsdm-f@tanita.co.jp

WEBサイト



Instagram



運動 できない人 の運動

B-SSES Belt electrode -
Skeletal muscle
Electrical
Stimulation

ベルト電極式骨格筋電気刺激法

このような患者さんに

- フレイル・サルコペニアなど、筋力低下がみられる
- 膝OAや腰痛などで運動がしにくい
- 呼吸・循環器障害で運動負荷がかけにくい



B-SSESの詳細はこちら→

B-SSESは「随意運動を代用する」治療法



改訂
第2版

認知症をもつ人への 作業療法アプローチ

視点・プロセス・理論

監修 宮口 英樹

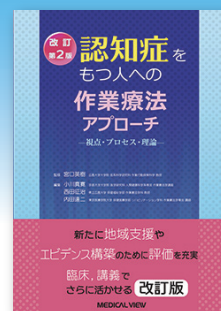
広島大学大学院 医系科学研究科
作業行動探索科学領域 教授

評価から実際の介入およびその効果の検討まで、一貫性のあるプロセスで解説。

改訂にあたって、①「地域支援」の内容を追加して多職種連携についての解説を盛り込み、②認知症特有の作業療法で使用する評価を掲載、③キーポイントとなる用語解説を掲載するなど、全体の約40%を改稿した。

実践方法から理論までを押さえ、臨床・講義でさらに活かせる1冊！

■ 定価 4,950円 (本体 4,500円+税10%) B5判・344頁・2色刷・イラスト40点、写真50点 ISBN978-4-7583-1944-7



メジカルビュー社
MEDICAL VIEW

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2番30号

<https://www.medicalview.co.jp>

TEL.03(5228)2050 FAX.03(5228)2059

E-mail (営業部) eigyo@medicalview.co.jp



入会のご案内

それぞれの専門性から創出される知見を共有し
各領域が一体となって老年療法学の確立を目指します。



各領域のプロフェッショナル達が枠組みを超え、患者さん・ご家族のニーズに応えるために
協働可能な高齢者保健、医療、福祉の世界を実現していく。

本学会においては、理学療法学、作業療法学、言語聴覚療法学のみならず、視能療法学、心理療法学、音楽療法学といった高齢者の療法に関する学問領域や、老年医学、内科学、整形外科、栄養学、代謝学、リハビリテーション医学、運動生理学、歯科・口腔外科学、薬剤学、看護学、社会学、福祉学など多くの臨床、基礎、社会科学研究分野における健康長寿に関する研究の発展を目指します。療法士のみならず、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士など様々な予防・医療・介護専門職及び基礎医学分野の研究者との交流の場として本学会を設立することにより、ますます深刻化する高齢化に向けた対策の知見を創出したいと思います。

入会資格

本会の目的に賛同する医療・介護・福祉専門職若しくは養成機関の学生及び研究者

会費

一般会員：年会費 5,000 円（7 月から翌年 6 月）

賛助会員：年会費 1 □ 100,000 円（7 月から翌年 6 月）

※途中入会の際も上記会費を申し受けます。

入会方法

入会をご希望される方は、入会申請フォームより必要事項を入力し、送信してください。
※いかなる理由におきましても、いただいた年会費は返金できかねますので、ご了承下さい。
※電話・FAX・Eメールでのご入会の受付は行っておりません。



入会手続きは
コチラ

役員紹介

【理事長】

島田裕之 国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター

【副理事長】

土井剛彦 国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター 予防老年学研究部

牧迫飛雄馬 鹿児島大学 医学部保健学科理学療法学専攻

山田 実 筑波大学 人間系

【理事】

池田 望 札幌医科大学 保健医療学部作業療法学科

石垣智也 名古屋学院大学 リハビリテーション学部理学療法学科

石橋 裕 東京都立大学 健康福祉学部作業療法学科

井上達朗 新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部理学療法学科

金子文成 慶應義塾大学 医学部リハビリテーション医学教室

神谷健太郎 北里大学 医療衛生学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

久米 裕 秋田大学大学院 医学系研究科保健学専攻作業療法学講座

佐賀里昭 信州大学 医学部保健学科作業療法学専攻

高山優子 西横浜国際総合病院 リハビリテーション部

田中寛之 大阪府立大学 地域保健学域総合リハビリテーション学類作業療法学専攻

田平隆行 鹿児島大学 医学部保健学科作業療法学専攻

外山 稔 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部言語聴覚学科

野添匡史 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部理学療法学科

橋立博幸 杏林大学 保健学部理学療法学科

橋本美奈子 船橋市立リハビリテーション病院 生活期支援部

前田慶明 広島大学 医学部保健学科理学療法学専攻

松沢良太 兵庫医療大学 リハビリテーション学部理学療法学科

【監事】

木村鷹介 関東学院大学 理工学部健康・スポーツ計測コース

堤本広大 国立長寿医療研究センター 研究所 老年学・社会科学研究センター 予防老年学研究部

【特別顧問】

荒井秀典 国立長寿医療研究センター

鈴木隆雄 桜美林大学大学院 国際学術研究科



一般社団法人
日本老年療法学会
The Japan Geriatric Therapy Society